



10月19日(火)、1年生は講師にパラリンピック7大会出場(短距離種目)を果たした永尾嘉章ながおよしふみさんを講師としてお招きして明日チャレスクールを開催しました。永尾さんの「あきらめずに取り組む姿勢」に、1年生の多くの方が心を動かされたことが感想文から伝わってきました。

さて、永尾さんの講演の中には、「障害者」に関するお話がありました。今回は、その点について1年生の皆さんがどんなことを感じたのかを見ていきたいと思います。

○ 車いすを使っている人は、メガネをかけた人といっしょだと教えてもらいました。車いすを使っている人は、かわいそうだと思っていましたが、それだけではなく、楽しいこともたくさんあると感じました。

○ 世の中には、いろいろな障害がある。僕は、障害があるからできないと思ってしまっていたけれど、僕たちと一緒に、努力をし続ければ、障害があろうとできてしまうんだと、「障害だから…」というのは、関係ないなと思った。

○ 障害があってもなくても、自分の好きなことをする姿は、障害に関係なくすばらしいと思う。永尾選手は、そのすばらしさを教えてくれました。人には、得意なこと、得意ではないことがある。「何もできない」や、「得意なことがない」と考えずに、得意なことを伸ばしていきたい。

○ 障害はどうすることもできないものだと思っていたけれど、人が少し助けてあげるだけで、普通の人と同じ生活ができるとは思っていませんでした。

○ 僕は障害のある人を少し不便だと思っていましたが、話を聞いて、何かの助けがあれば、生活していけることがわかりました。僕たちも日々、何かに助けられて生活しているので、そこはどんな人でも変わらないんじゃないかと思いました。(中略)永尾さんが教えてくれた「あきらめないこと」。それは、どんな人にとっても変わらないんじゃないかと思いました。

○ 永尾さんから聞いたお話や言葉は、心にささることが多かった。駅などに行ったときに、今までは階段も、何も考えずに使っていたけど、いろんな話を聞いて、階段を見ると、車いすの人はどのようにすれば、みんなと同じように使用できるかな、と考えるようになった。

先生もこの明日チャレに参加して永尾さんのお話を聞き、これらの文章と同じようなことをあれこれ考えました。「障害者とは何だろう」「自分との差は何?」「いや、差というものはないのではないか」「じゃあ違い?いや、個性?」「自分も最近老眼が進んできたが、これも障害?」「じゃあ、自分も障害者?」などなど…。

様々な障害を持つ人が、悩まなかったことは多分ないと思います。でも、自分について悩みながらも、前を向いて、あきらめず、一步一步進んでいくことの大切さは、どんな人にとっても同じこと…。そんなことを多くの1年生は感じたのだと思うし、永尾さんが伝えたかったことも、まさにそのことだったのではないかと思います。

